

2020年を表す漢字トップ3は「忍」「耐」「禍」

制限ある暮らしのなか「変化に対応できた」76.9%

「作る」「育てる」趣味でイエナカの充実度はアップ？

新型コロナウイルスの感染拡大で、毎日の暮らしにさまざまな変化が訪れた2020年。旅行や外食など外出の機会がグンと減り、おうちで過ごす時間が今までになく長い一年となりました。そこで「オレンジページ暮らし予報」では、国内在住の20歳以上の女性を対象に、「イエナカ」時間の過ごし方について調査。コロナ禍の毎日を、みんなはどんなふうに過ごし、それによってどんな変化があったのでしょうか？不便だけれど乗り切ることができた背景を探っていくと、コロナ禍で増えた「おうち時間」の充実度が関係していることが浮かび上がりました。

【ダイジェスト】

2020年を表す漢字トップ3は「忍」「耐」「禍」

イエナカの充実度が関係!?暮らしの変化に「対応できた」76.9%

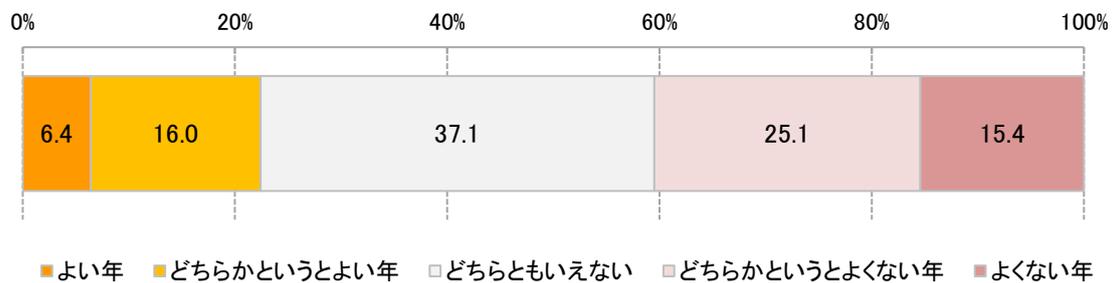
日々の楽しみも、大切な人との交流も、スマホが大活躍！



自由回答の内容から、出現頻度の高い言葉を選び、その頻度に応じた大きさと色で表現する「ワードクラウド」で分析したもの

[Q]2020年はあなたにとって、どんな年でしたか？

(n=1531)

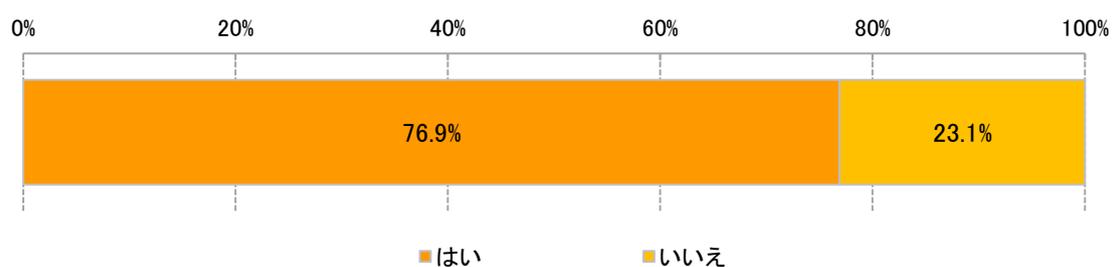


2020 年を表す漢字トップ3はやっぱり!? 「忍」「耐」「禍」

ウイルスの脅威が、健康だけでなく経済にも大きな影響を与えたこの一年。「2020 年は、あなたにとって、どんな年でしたか？」という問いに対し、40.5%もの人が「よくない年」「どちらかといえばよくない年」と総括しています。さらに、2020 年を漢字 1 字で表してもらくと、上位は「忍」「耐」「禍」と、暗いイメージの漢字が並びました。外出の制限や学校の休校などにより、何かと我慢の多い日々をひたすら耐えた、波乱の一年を象徴するような言葉であることが印象的です。ほかに、「肅」「静」など、できるだけ外出を控え、家で過ごすとしたマインドを感じる言葉も目立ち、「外より内」で過ごす「巣ごもり」傾向が裏付けられる結果となりました。

[Q]世界中がコロナ禍に見舞われましたが、あなたは暮らしの変化に対応できましたか。

(n=1531)

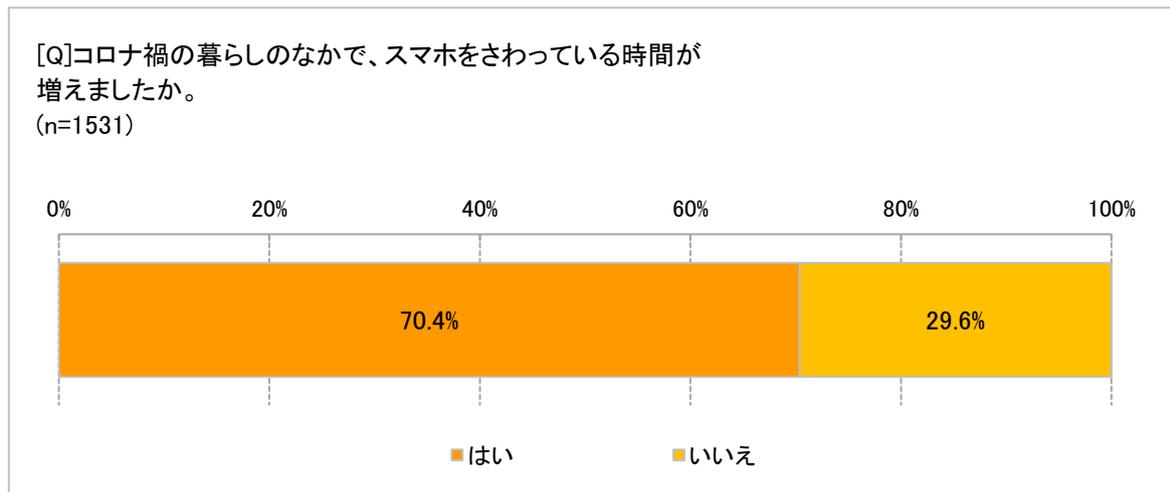


イエナカの充実度が関係!? 暮らしの変化に「対応できた」76.9%

外出の自粛、外出時のマスク着用、ソーシャルディスタンスなど、感染拡大防止のためのさまざまなルールが生まれ、私たちのライフスタイルもこれまでとは大きく変化しました。しかし、76.9%の人はこうした「暮らしの変化に対応できた」と回答。その背景を探っていくと、どうやらコロナ禍で増えた「イエナカ時間」の充実度が関係しているようです。

そのひとつとして、「おうちで趣味に費やす時間が増えた」55.4%のように、趣味を通じてイエナカ時間を楽しみを見出した人が多いよう。

「今年、とくに楽しんだ趣味」について自由回答できいたところ、大きく2つの傾向が見られました。それは、家庭菜園・ガーデニングなどの「育てる系」と、アクセサリーや手芸、お菓子などの「作る系」にトライした人が多かったこと。「家庭菜園を始め、収穫した野菜でピザパーティをしました」(50代・パート)、「手芸にチャレンジ。長年手つかずだった大きなキルトを完成させました」(50代・パート)、「子どもとお菓子や料理を作る時間を持つことができ、幸せだなと思いました」(40代・パート)など、完成までに時間がかかるものや、過程を楽しむものに挑戦した人が目立ちました。仕方なく増えたイエナカ時間ではありますが、それをうまく利用したり、これを機に時間の使い方を見直したりして、楽しみに転換した人が意外に多いことがわかります。



日々の楽しみも、大切な人との交流も、スマホが大活躍！

そのほか、暮らしへの影響として「スマホを触っている時間が増えた」人が70.4%もいたことがわかりました。

とくに、LINEのメッセージや動画、ビデオ通話を活用し、おうちにいながら、「友人や離れて住んでいる家族と連絡取り合った」(50代・フルタイム)、「なかなか連絡できなかった友達とつながることができ、懐かしい時間を過ごせた」(50代・パート)など、家族や友人との交流を楽しんだ人も多数。リアルに会うことが難しいからこそ、人との絆の大切さをあらためて実感する機会にもなったようです。

また、よく利用するコンテンツの上位には、ニュース・天気予報、動画、通販など多岐にわたり、「YouTubeで朝の家事の流れを映したルーティン動画をチェック。効率のよいやり方がわかって参考になりました」(30代・フルタイム)、「Instagramかな。いろいろな人の暮らしについての考え方や料理が見られて刺激に」(50代・パート)など、「生活に必要な情報も、自分の時間を楽しむのも、スマホから」という傾向が見てとれます。また、場所を選ばず、隙間時間に気軽に見られるのも、スマホが支持される理由の1つかもしれません。

コロナ禍の影響で、みんなの時間の使い方に変化が見られた今回の調査。感染拡大防止のためできないことが多い反面、家でできる目の前の小さな楽しみに目を向けることで、充実した毎日が送れることがわかりました。2021年も続くことが予想される、withコロナの生活。イエナカ時間の使い方をあらためて見直し、自分なりの豊かな暮らしを広げていきたいですね。

アンケート概要

- 調査対象:オレンジページメンバーズ・国内在住の20歳以上の女性(有効回答数1531人)
- 調査方法:インターネット調査
- 調査期間:2020年11月3日～8日

●「オレンジページ暮らし予報」について

読者モニター「オレンジページメンバーズ」には、さまざまな暮らし情報・暮らし体験によってはぐくまれた“くらしの目利き”たちが数多く所属しています。そんなメンバーたちの声を集めてく次のくらし>を読み解いていくのが「オレンジページ暮らし予報」です。WEB上でのアンケート調査、座談会など、ご相談に応じて展開いたします。

●『オレンジページ』について

失敗なくおいしく作れるレシピ情報が支持され、今年創刊35周年を迎えた生活情報誌。30～40代の主婦を中心に幅広い読者層を誇ります。発行部数=318,679部(2019年印刷証明付発行部数)。

この資料に関するお問い合わせ

株式会社オレンジページ

くらしデザイン部

kurashi@orangepage.co.jp Tel. 03-3436-8418